



皆さん、ご復活おめでとうござい
ます。
おかしいことに、イエス様は復活さ
れた今も、相変わらず十字架につけら
れたままです。どうしてでしょうか。
なぜ復活祭を迎えたのに、わたしは十
字架の話をしているのでしょうか。そ
れには訳があります。復活というもの
は、十字架なしに考えることは絶対で
きません。四旬節の四十日間、どのよ
うな心で生きてきたかによって、具体
的に皆さんの心の中で復活されたキリ
ストを体験することができるかどう
かが決まります。
復活する前の十字架とその後の十字
架は、それを見るわたしたちの目が
まったく違います。復活の体験ができ

「十字架と復活、そして希望」 京丹ブロック担当司祭 崔 聖煥



た人には、復活されたイエス様の十字
架は美しく見えます。あの十字架を背
負いたくなくなり、イエス様の後をつい
ていきたくありません。しかし、その
体験ができなかった人には悲しく、愚
かに見えます。「なぜ、なんで」とい
うことになってしまおうでしょう。神の
子であるイエス様が、約束した復活の
生き方を見せてくださらなかったら、
わたしたちが教会にいる理由はありま
せん。結局、信仰の道は十字架を抱き
しめて復活を望む歩みです。だから、
十字架と復活を別々にして考えるのが
おかしいです。十字架を負わずに「わ
たしは復活の体験をしている」と言う
のはうそです。復活の意味も、イエス
様の生き方の意味も、わからないこと
になります。
復活とは何でしょうか。皆さんに
とって、どんな意味を持っているので
しょうか。復活は一言でいえば「希
望」です。お願いします。「希望を
持つてください」皆様の心の中で「希
望」が生じたかどうかで、復活の体験
ができたかどうか決まります。では
何の希望でしょうか。変わってしまう

どこだろう 何だろう？

教会のどこかで撮影し
たスナップ写真です。
これが何だかわかりま
すか？



正解は広報部員まで

希望でしょうか。いいえ、そうではな
く、イエス様が教えようとした「美
しい道」その道をわたしたちも生きるこ
とができるという希望です。今まで自
ら「わたしは何もできない。この世の
中は美しくない。人生はおもしろくな
いし、生きる意味はない」と言ってい
た人が「そうではなかった。イエス様
が見せた真実の生き方が自分にもでき
る」そのような希望を持てるようにな
るのが十字架、そして復活です。ここ
に復活されたイエス様が、そのまま十
字架にかけられているのには訳がある
のです。つまり、復活の希望を与える
ための十字架なのです。
皆さんの胸の中をよく見てくださ
い。「希望」というものが見えます
か。必ずあります。絶対譲ることので
きない「希望」がそれぞれの胸の中に
必ずあります。それに答えましょう。
そして復活されたイエスさまへわた
したちができる一番大きなプレゼント
になると思います。
もう一度挨拶させて頂きます。ご復活
おめでとうございます。